

# 海外であるからこそできる生き方指導とコミュニケーション能力の育成

前マドリッド日本人学校 教諭

埼玉県川口市立仲町中学校 教諭 廣 美 穂

キーワード：国際理解教育，総合的な学習の時間，進路

## I. はじめに

近年，スペインの人口増加は著しく，4600万人を越え，その約10%を外国人が占めている。温暖な気候を求めて移住する裕福なヨーロッパ人，出稼ぎでやってくる貧しいヨーロッパ人，職を求めて移り住む南米人…。様々な人々が住んでいる国である。

マドリッド日本人学校は，保護者の海外勤務で数年間のみ通う児童生徒が大半であるが，両親が永住している児童生徒もいる。

3年間，日本人学校に勤務して感じたことは，異国にいる環境であるからこそ，日本の教育だけでなく，その国の文化や考えを多く学びたい，その国の言語を使って，現地の人々との交流をしたいと生徒・保護者からの要望が大変大きいことということだった。この考えは，もちろん教師側も同じである。その考えのもと，スペインという国の特徴を生かした日本では味わえない経験や考え方を学べる学習活動を常に考え，社会見学・自然探索・宿泊体験・高校見学・保育・老人ホーム訪問等様々な体験を企画し，取り組んできた。

その中で，中学部の担任である利点を活用して，「生き方指導」に着目した。現地の方とのコミュニケーションを通して，自分の進路や将来をみつめられないか，視野を広げられないかという企画を考えた。日本で行われている進路学習をマドリッド日本人学校らしい取り組みに変えて実施してきたことを記す。

## II. 実践

### 1. 「はたらくとは…」についての生き方指導のねらい

- (1) 職業やはたらくことを考える力を育てる。
- (2) 自己の将来に向けて積極的に考えようとする意欲と態度を育てる。
- (3) 学校内ではたらく人々から職業の情報を得ることを通して，豊かな職業観を身につけるとともに現地の人々と接するコミュニケーション能力の向上を培う。
- (4) 現地での職場体験を通して現地理解を深める。

①現地の人々との出会い・ふれあいを大切にする。 ②社会で働くよろこびや厳しさを実感する。

### 2. ねらいを達成するための手だて

- ・「生き方指導」に重点を置き，職場体験学習を始めるに当たって，「はたらくことの意義」について話し合う場を設定する。
- ・現地ではたらく人々との交流を深めるために不可欠なスペイン語・英語への関心を高め，仲間同士で挨拶を行う練習や質問事項を考える時間を設定し，意識の高揚を促す。
- ・訪問・体験にあたり，事前に質問事項や注意事項を調べ，仲間との共通理解を図る。  
職場体験活動を通して，振り返りを行い，意見を述べあう時間を設定する。そのことで，自己の将来を見つめ直す機会にあてる。

### 3. 活動の実際と成果

- (1) はたらくとは…<学校で働いている方々に質問しよう>

### ① 学活「はたらくとは…」について共通理解をはかる

現実には、「お金を稼ぎ、生きていく」という考えを持っていながらも、生徒一人一人が社会への貢献・自分の価値を生かしていきたいという気持ちをもっていた。最終的には、周りの人を「楽」にさせること、つまり人の役に立つことが自分の幸せにつながるということにつながった。それにより、自己の将来への生き方を考えるきっかけとなった。

### ② 校内で働く人々から学ぶ

校内には、日本から派遣された教諭以外に、現地採用の英語・スペイン語講師・芸術技能関係を教える講師、スペイン男性と結婚した日本女性の事務員、仕事を兼任している男性スペイン人と、ボリビア出身の女性の2人の用務員。スクールバスのガイド…と、様々な人々が働いている。その方々との交流をしているかという質問をしたところ、挨拶程度だけで、ほとんどなかった。その現状を理解し、なぜ、この地で働いているのかという関心をもつようになった。そこで、「スペインで生きる」「はたらく」ということをテーマに質問事項を考えた。担当者を決め、2人組になりインタビューを行うこととした。インタビューで使用する言葉は、スペイン語か英語のみと限定したため、使用したい単語を調べたり、仲間同士で学んだりして語学への意識を高めることができた。その後、内容をまとめ、発表を行った。

### ③ 成果

- ・挨拶程度のスペイン語だったのが、辞書を使いながらも、自分で考えた文章で相手に伝わることの嬉しさを知り、現地の人とのコミュニケーションをさらに意欲的に行う姿勢を生み出すことが出来た。

- ・身近な人の生の声として「はたらく」ことのすばらしさ・つらさを聞くことで、インタビューをした人の新たな人間性や考えを学ぶことができた。中でも仕事をかけ持ちをしているスペイン男性用務員さんは、養護施設で働いていること、その方達と一緒に生活していること、人の手助けができることが自分の幸せになること、ということを学んだ。ボリビアから出稼ぎに来ている掃除婦さんは、家族を養うために仕事をしていること、その仕事には誇りをもっていること、何より、仕事があることが幸せなんだということを教えてくれた。

- ・インタビューの内容は、校内にも掲示し、小学部の児童や保護者、補習校の方々と多くの方に読んでもらった。共感をしてくださる保護者が多く、よき感想をいただくこともできた。



インタビューをしている風景

## (2) スペインにある職場で職場体験をしよう

### ① 職場体験

実際の職場を体験するために、いくつかの候補地があがった。以前にも赤十字・日本企業関係のもとで実施したが、話と体験をさせてもらえるところを考えた。1日のみの体験であったが、スペインレストランで活動を行うことができた。

**活動内容** ・レストラン経営者・各担当者（料理人・ウエイター）からの話と質問・設備案内  
・まかない作り・開店前準備手伝い

## ② 成果

通訳をつけての活動ではあったが、経営することの楽しさや難しさ、日々気をつけていること、お客様への接客の心得などを、実際にはたらいっている方々から直接聞くことが出来、生徒の仕事に対する考えに影響を与えることができた。また、大きな鍋でつくる食事の大変さを体験することも出来た。

## (3) 生徒の感想

- ・今回初めて厨房に入らせてもらって料理をしてとても楽しかったです。あの大きななべで料理するのはとても大変でした。料理は力も必要なんだと分かりました。また、一回の食事が終わるごとにテーブルかけを換えたり、暖房を調節したり、一つ一つの部屋や飾り、太陽の当たり具合などに注意をはらっていること、常にお客さんのことを考えていることを学びました。
- ・「はたらくこととは」と質問すると、「自分がやりたいから」と同時に「誰かのためになる」という答えが返ってきました。誰かのためになること、それをすれば、自然と自分のために何かをしていることになり、自分に返ってくるのが分かりました。この進路学習を通して自分の夢に対しての考えが変わりました。
- ・人のためになって自分のやりたいことのできるそんな仕事を夢に持ちたいです。
- ・はたらくって楽しいことだとインタビューや体験活動を通して、そう思えるようになりました。
- ・はたらくってすごいことなんだと思いました。はたらくたくても、はたらくことが出来ない人が大勢いることが分かりました。私は、はたらくこととは「人のためであり自分のためでもある」と考えました。それが自分の成長につながるのだと思います。
- ・自分の予想以上に色々な職業があって視野が広がりました。人のためにすることの種類は、無限に広がっていて自分が一番頑張れそうな職業を選べばいいと思いました。そして、スペイン語に挑戦出来たことが大きかったです。お互い真剣な話の中なので、得意でないスペイン語では理解出来ないと思っていたけれど、いざやってみるとチャンスがたくさん転がっていて、一つずつものに出来た気がします。



大きな鍋で料理を行う料理長

## Ⅲ. まとめ

「学ぶ場所、学ぶチャンスは、どこにもある。」いうことを改めて感じた。多くの方々の協力がなければできないことではあるが、わざわざ校外へ場所を移さなくても、校内で十分様々なことを体験・学習出来るものなのだと振り返るよいきっかけとなった。

特に校内の方へのインタビューで、身近な人々の生きてきた背景、価値観、好きな言葉や趣味などを知り、生徒だけでなく教師側も以前にも増して親近感が沸いた。また、海外で暮らすこと、はたらくこと、人生や生き方について生徒一人ひとりが真剣に考える時間を与えることが出来たように思えた。

ただし、今回約1ヶ月間という短期間の取り組みであったため、少々物足りなさが残った。中味の濃い内容だけに、年間を通して何らかの形で取り組みをしていくこと、現地の人とのコミュニケーションをはかる場を多く設定することで、言葉やコミュニケーション力を自然と身に付けられ、現地理解や国際理解への関心をさらに深めることができるのではないかと感じた。

今後、改善を加え、中学生だから感じることで、心に響く活動を行うことで、生徒・教師がともに、さらに視野を広げていけるのではないだろうか。